やがて、人は、理想を描いた

理想郷「新しき村」

「人間らしく生きる」「自己を生かす」
「他人の自我を害してはいけない」。
文豪・武者小路実篤（むしゃこうじさねあつ）が、
人間の理想郷を提唱して築いた『新しき村』。
九州・日向（ひゅうが）の地で始まったこの試みは、昭和14年、
毛呂山町に舞台を移し、現代に引き継がれている。

武者小路実篤（1885-1976）の自画像

志賀直哉、有島武郎らとともに文学雑誌『白樺』を創刊した武者小路実篤。小説をはじめ人生論や芸術論などを精力的に発表し、白樺派の精神的な支柱として活躍した人物です。

大正7年、実篤は、階級闘争のない理想的な調和社会の実現を目指し、宮崎県木城村（現・木城町）に「新しき村」を建設。しかし、昭和13年、ダム建設が本格化したことで、村は移転を余儀なくされました。そこで「新しき村」の村民たちは、自然と緑に恵まれ、歴史と文化が薫る毛呂山を新天地と定め、翌年、新たに「新しき村」を築いたのです。

以来、村民は毛呂山町民との交流に努めてきました。村の「創立記念祭」などのお祭りを開催し、特産品（卵・椎茸・米・お茶など）の即売や模擬店の出店、演劇発表会（日本舞踊・朗読）などを地元の人びとと共に楽しみました。また、毛呂山町の農家が、毛呂山の風土に合った作物や農法を村民に指導することもあり、産業面での交流も行われました。さらに、託児所不足が深刻だった昭和43年には、「新しき村仲よし幼稚園」を開設。村の住人も毛呂山町民も安心して子どもを預けられる場所となり、昭和59年3月に閉園を迎えるまで、多くの子どもたちが巣立っていきました。

実篤が育んだ「新しき村」は、彼が理想とした各人の個性を互いに尊重しつつ、平和的協力のなかで自分を伸ばすことを集団生活において目指したものでした。物質面よりも精神の豊かさを唱え、競争よりも共生を主張した実篤の思想は現代社会が直面している課題を先駆けて提唱したものであったともいえます。なお、毛呂山町と宮崎県木城町は「新しき村」が縁で平成20年2月に友情都市の盟約を締結（ていけつ）し、産業まつりなどのイベントに参加しあうなど、交流が行われています。

実篤の残した作品

宮崎県木城町／日向新しき村

毛呂山町の特産品でもある「新しき村」の鶏卵

新しき村美術館

Later, people started to set a vision. (A utopian commune "Atarashiki Mura")

A Shirakaba Group novelist Saneatsu Mushakoji advocated a utopian commune and established "Atarashiki Mura"(New Village) in Kijo Village (present Kijo Town), Miyazaki Prefecture in1918. However, because of a dam project at Kijo Village, Atarashiki Mura was relocated to Moroyama Town in 1938. Since then, the villagers have socialized with people of Moroyama Town in diverse ways. In February 2008, Moroyama Town and Kijo Town became Friendship Towns.